

評価計画						
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値
学力の向上を図る学校	1	基礎・基本の確実な定着を図り、自ら学ぶ生徒を育成する。	(1) 生徒が「分かった」「楽しい」と感じる授業づくりを推進する。	○学習規律（ノーチャイム・立腰・私語）の徹底を図る。 ○「磯松授業スタイル（個人思考⇒全体交流⇒個人思考）」、「話し合い活動」を取り入れた授業実践。 ○小中連携（ETプロジェクト）による実践交流の推進。	①「学びことは楽しい」に肯定的な生徒の割合（アンケート）	80%以上
			(2) ICTを活用して新しい学びのスタイルを確立する。	○タブレット端末を授業展開や家庭学習にも活用する。 ○オンラインを活用して、全国の人材や教材を発掘し、カリキュラムマネジメントを推進する。	②「全国学力・学習状況調査」等の全国的な学力調査の結果	全国平均以上
規律と活気のある学校	2	豊かな心と健やかな体を育て、活力ある生徒を育み、不登校の未然防止に努める。	(1) 豊かな人間性と社会性を育てる。	○JASMIN（東広島スタンダード）を徹底する全校的な気運を高める。 ○生徒の主体的な活動（部活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動等）を仕組み、自己肯定感を高める。	④「自ら声を出して明るく挨拶ができる」と回答する生徒の割合（アンケート）	90%以上
			(2) 健康の増進とたくましい体を育てる。	○健康教育・食教育の推進を図る。 ○新体力テストの結果を踏まえて、弱点克服のための補強運動を実施する。	⑤新体力テストで県平均を上回る種目数（各学年男女）	過半数以上
			(3) 不登校の未然防止、解決に向けた取組を充実させる。	○生徒指導部会（不登校対策委員会）を基点とし、情報共有から方針に基づいた機動的な早期対応。 ○スクールカウンセラーや心のサポーター、関係機関を含めたチーム対応の推進。	⑥不登校生徒の人数（割合）	20人以下 （全国平均3.94%以下）
組織的運営をする学校	3	組織的な学校運営体制を確立し、保護者・地域に信頼される学校をつくる。	(1) 「報告・連絡・相談」を徹底し、組織的に動く。	○各主任が構成員の意見を把握し、学校経営会議（週1回）で、建設的な協議を行う。 ○危機管理意識を持ちながら、一人で抱え込まず相談できる信頼関係を構築する。	⑦「仕事を頼みやすい、相談しやすい職場である」に肯定的に回答する教職員の割合（アンケート）	90%以上
			(2) 学校の情報を積極的に発信し、地域に開かれた学校づくりを推進する。	○東広島ポータルサイトの磯松中に登録する地域の方を増やす。 ○ボランティア活動を推進し、中学生だからできる地域貢献を推進する。	⑧ポータルサイトへの登録者、学校情報（学校の様子）発信回数	800人以上登録、80回以上発信
			(3) 一人一人を大切に、魅力ある学校づくりを推進する。	○生徒に寄り添い、「思い」を受け止めて、生徒を伸ばすために同じ方向を向いて、誠実に取組む。 ○既存の概念に縛られず、アイデアを集め、柔軟にクリエイティブな活動を推進する。	⑨「磯松中学校に行ってもよかった（生徒）」「行かせてよかった（保護者）」「勤めてよかった（教職員）」の割合（アンケート）	90%以上